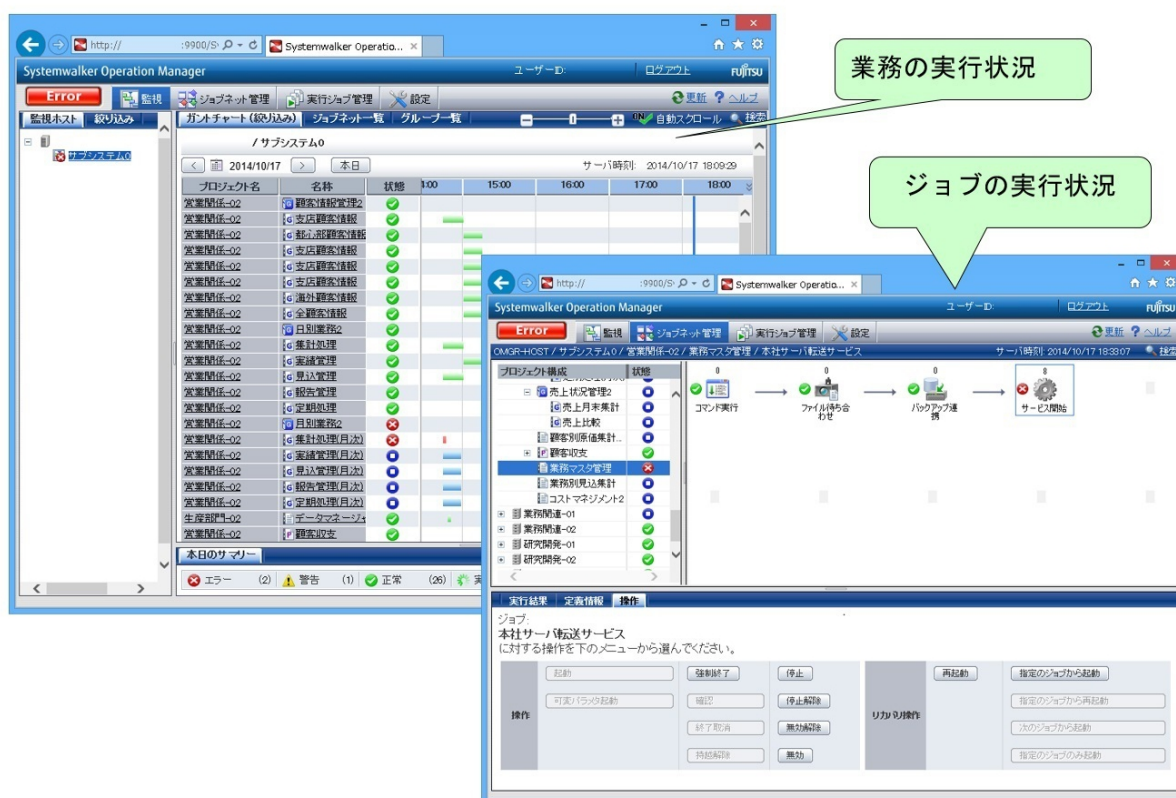


Fujitsu Software

Systemwalker Operation Manager Enterprise Edition V17.0.1

本商品は、業務の自動運転を実現する商品です。本商品を使用することで、ネットワーク(LAN/WAN)上に分散配置された各サーバにおける定型業務のスケジューリング/実行監視/操作などが可能になり、業務運用のトータルな自動化、安定稼働と低コスト運用を実現することができます。バッチ業務の実行にあたっては、キュー制御や優先度制御などによるきめ細やかな制御も可能です。Enterprise Editionでは、Standard Edition の機能に加えて、大規模な業務運用と、業務に対する高信頼性(クラスタ対応など)といった基盤系業務に最適な機能を提供します。

【業務の監視画面】



業務の実行状況

ジョブの実行状況

- サーバ

SPARC Servers / SPARC Enterprise Mシリーズ / SPARC Enterprise Tシリーズ / マルチベンダーサーバ・クライアント / FUJITSU Cloud Service for SPARC

- リモートマシン（インストールレス型ジョブ実行制御機能を利用時）（詳細は留意事項を参照）

SPARC Enterprise Tシリーズ / SPARC Enterprise Mシリーズ / SPARC Servers / PRIMEQUEST 4000シリーズ / PRIMEQUEST 3000/2000シリーズ / マルチベンダーサーバ・クライアント / PRIMERGY / FUJITSU Cloud Service for SPARC / FUJITSU Hybrid IT Service FJcloud-0 IaaS / FUJITSU Hybrid IT Service for Microsoft Azure 仮想マシン / パブリッククラウド

- クライアント

FMV / マルチベンダーサーバ・クライアント

- ・ サーバ

Solaris 11(64bit)

- ・ リモートマシン（インストールレス型ジョブ実行制御機能を利用時）（詳細は留意事項を参照）

Solaris 11(64bit) / Windows Server 2022(64-bit) / Windows Server 2019(64-bit) / Windows Server 2016(64-bit) / Red Hat Enterprise Linux 9 (for Intel64) / Red Hat Enterprise Linux 8 (for Intel64) / Red Hat Enterprise Linux 7 (for Intel64)

- ・ クライアント

Windows 11(64-bit) / Windows 10(64-bit)

1. Systemwalker Operation Manager Enterprise Editionの機能範囲

Systemwalker Operation Manager Enterprise Editionは、Systemwalker Operation Manager Standard Editionの全機能に加えて、次項以降の機能を提供します。

Systemwalker Operation Manager Standard Editionの詳細は、Systemwalker Operation Manager Standard Editionのソフトウェアガイドの「機能説明」を参照ください。

2. 高信頼機能

(1) クラスタシステム対応

以下クラスタシステムの構成上で、業務をスケジュールすることが可能です。

- 1:1運用待機の構成
- n:1運用待機の構成
- 2ノードの相互待機の構成

(2) 複数サブシステム運用

一台のサーバ上で、複数のSystemwalker Operation Managerを動作させることが可能になります。

同一サーバ上で、本番運用とテスト運用を同時に行うことができ、本番運用に影響を与えることなく構築した業務に問題がないかを事前に検証することができます。

3. 大規模システム対応

(1) 分散スケジュール集中管理

- ジョブネット定義とスケジュール定義を分離し、日毎のスケジュール（予定や実績）を個別に管理することができます。
- ジョブネット定義やスケジュール定義をリリースに先立って事前に変更することができます。
- 日変わり時刻を越えて、翌日までずれ込んだジョブネットの扱いをあらかじめ定義することができます。さらに、当日業務と翌日業務とを待ち合わせの発生により連携することができます。
- 業務アプリケーションが日付を意識した運用において、サーバダウンなどで複数日運用が停止した場合にサーバ復旧後、過去の日付のスケジュールを再開できるようにします。
- 既に作成済のスケジュール情報でジョブネット単位に抽出・登録できるコマンドを実行し、新たなスケジュール情報として作成することで、日々マスタ情報が変更される運用に対してもフレキシブルに対応できるようになります。

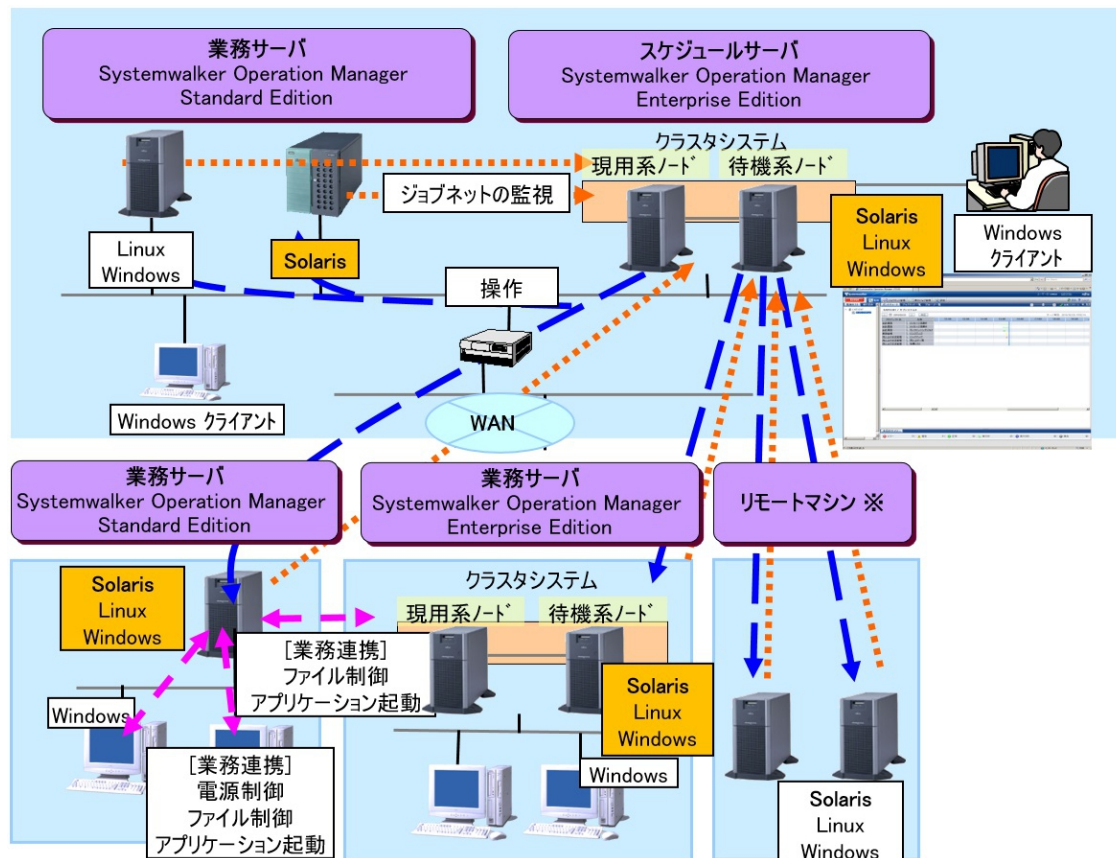
(2) 大規模なバッチ業務運用を実現します。

- 1つのプロジェクトに登録できるジョブネット数の制限が無くなります(Standard Editionの場合は255個まで)。
- 複数のサブシステム運用により、バッチジョブの大量登録によるスケジューリング遅延が無くなります。

4. SOAの分散環境対応

オープンシステム上の基幹バッチ処理の管理

オンライン業務の延長上で発生する基幹バッチ処理も含めたジョブネットのスケジューリングが可能です。



※) リモートマシンに依頼する場合はスケジュールサーバにV16.0以降をインストールする必要があります。

V17.0.0からの強化項目は以下のとおりです。

1. 新規環境への対応

インストールレス型ジョブ実行制御機能が対応するリモートマシン側のOS

Red Hat Enterprise Linux 9 (for Intel64)に対応いたします。

クラスタ環境

以下の環境に対応いたします。

- ・ PRIMECLUSTER Enterprise Edition 4.6A00
- ・ PRIMECLUSTER HA Server 4.6A00
- ・ PRIMECLUSTER Clustering Base 4.6A00

Job Designer動作環境

Microsoft(R) Excel 2021(x86版/x64版)に対応いたします。

2. 機能改善

ジョブファイルの検索に使用するPATH環境変数に、任意のパスを追加できるようになりました。

パスを、PATH環境変数定義ファイルにまとめて定義することで、ジョブごとにフルパスで指定する必要がなくなります。

- ・ オンラインマニュアル

- ・ オンラインマニュアルについては、留意事項の「オンラインマニュアルについて」を参照ください。

【メディアパック】

- ・ Systemwalker Operation Manager Enterprise Edition メディアパック (64bit) V17.0.1

【永続ライセンス】

- ・ Systemwalker Operation Manager Enterprise Edition プロセッサライセンス (1年間24時間サポート付) V17
- ・ Systemwalker Operation Manager Enterprise Edition プロセッサライセンス アップグレードキット (1年間24時間サポート付) V17
- ・ Systemwalker Operation Manager プロセッサライセンス(リモートマシン用) (1年間24時間サポート付) V17 [Solaris版]

本商品の永続ライセンス製品には、初年度の「SupportDesk Standard」がバンドルされています。

【サブスクリプションライセンス / サポート】

[サブスクリプションライセンス / サポート(月額払い)]

- ・ Systemwalker Operation Manager プロセッサライセンス(リモートマシン用) for Linux (SL&S)
- ・ Systemwalker Operation Manager プロセッサライセンス(リモートマシン用) for Windows (SL&S)

[サブスクリプションライセンス / サポート(まとめ払い)]

- ・ Systemwalker Operation Manager プロセッサライセンス(リモートマシン用) for Linux (SL&S) 7年
- ・ Systemwalker Operation Manager プロセッサライセンス(リモートマシン用) for Windows (SL&S) 7年

1. Enterprise Editionを購入する条件

以下のいずれかの場合に、Systemwalker Operation Manager Enterprise Editionを購入してください。

- ・ クラスタシステムに導入する場合
- ・ 大規模な業務スケジューリングを行う場合
- ・ 分散スケジュールでの集中管理を行う場合
- ・ 複数サブシステムで運用する場合

2. メディアパックについて

メディアパックは、媒体（DVD）のみの提供です。使用権は許諾されておりませんので、別途、ライセンスを購入する必要があります。また、商品の導入にあたり、最低1本のメディアパックが必要です。バージョンアップ/レベルアップを目的に本メディアパックのみを手配することはできません。

3. ライセンスについて

(1) プロセッサライセンスについて

プロセッサライセンスは、本商品をインストールするサーバに搭載されているプロセッサ数に応じて以下のとおりに必要となるライセンスです。

- ・ シングルコアプロセッサの場合は、1 プロセッサ（COD モデルの場合は CPU RTU ライセンスを持つ 1 稼働CPU）あたり 1 本の購入が必要です。
- ・ マルチコアプロセッサの場合は、コアの総数に特定の係数を乗じた数（小数点以下端数切上げ）分のライセンスの購入が必要です。
 - SPARC M12/M10 では、CPU コアアクティベーションキーにより有効化されたコアの総数に特定の係数を乗じます。
 - SPARC Enterprise/PRIMEPOWER の COD モデルでは、CPU RTU ライセンスを持つ稼働 CPU 上のコアの総数に特定の係数を乗じます。

マルチコアプロセッサにおける係数については、「関連URL」に記載の「ソフトウェア：富士通（インフォメーション&ダウンロード）」内、「ライセンスについて、くわしく知る」を参照ください。

(2) クライアントライセンスについて

Systemwalker Operation Manager Enterprise Editionでは、Systemwalker Operation Manager クライアントを、インストールフリーで導入できます。

4. リモートマシン用ライセンスを購入する条件

以下の場合に、Systemwalker Operation Manager プロセッサライセンス(リモートマシン用)を購入してください。

- ・ Systemwalker Operation Managerをインストールしないリモートマシン上のバッチファイル/シェルスクリプト、コマンド、実行プログラムを本商品のmjrmtjobコマンドを使って実行(「インストールレス型ジョブ実行制御」といいます)する場合、リモートマシン側のプロセッサ数に応じて購入してください。

なお、プロセッサ数の考え方については、購入方法3項「ライセンスについて」の「(1) プロセッサライセンスについて」を参照ください。

また、Systemwalker Operation ManagerをインストールしないリモートマシンのOSに合わせてライセンスを購入してください。Linux向けおよびWindows向けにはサブスクリプションライセンスを提供しています。サブスクリプションライセンスについてはLinux版またはWindows版のソフトウェアガイドを参照してください。

5. ダウングレード使用（旧バージョン商品の使用）について

本商品のライセンスでは、ダウングレード使用（本商品の旧バージョンを使用）する権利はありません。対象のバージョンを使用する場合は、対象のバージョンに対応したライセンスをご購入ください。

6. クラスタ運用時の購入方法について

運用待機形態の場合、運用系ノード、待機系ノードを合わせて1システムと見なし、1システム毎に購入が必要です。（待機系ノードのライセンスは不要です。（ ））

運用待機形態以外の場合は、ノード数分の購入が必要です。

待機系ノードでジョブを実行する場合は、バックアップ処理などの物理ホスト単位での実行が必要な一部のアプリケーションのみです。待機系ノードで、業務アプリケーションやスケジュール管理を行う場合は、別途ライセンスの購入が必要となります。

7. 購入時の特約事項

永続ライセンスの契約におけるライセンス使用条件の特約事項について記載します。

[Solaris版Systemwalker Operation Manager Enterprise Edition プロセッサライセンス (1年間24時間サポート付)に適用されるライセンス使用条件]

(1) 運用待機構成時

お客様が対象プログラムをインストールするコンピュータが、常時対象プログラムが稼働するコンピュータ(以下「運用系コンピュータ」といいます)と、運用系コンピュータが障害などの理由により使用できない場合にのみ対象プログラムが稼働するコンピュータ(以下「待機系コンピュータ」といいます)により構成されたシステムの場合は、1つのシステムを1台のコンピュータとみなします。その場合、お客様は、ライセンス条件説明書の第1項「基本的なご使用方法」第(1)号により運用系コンピュータに対象プログラムをインストールして使用することに加え、待機系コンピュータに対して、ライセンス条件説明書に定めるライセンス数分、対象プログラムをインストールして使用することができます。

(2) オープンソースソフトウェア等のライセンス条件

本製品のうち、富士通が別途定めるオープンソースソフトウェア等(以下「OSS」という)については、ライセンス条件説明書に加えて、ソフトウェア説明書に記載されるライセンス条件が適用されます。ソフトウェア説明書に記載されるライセンス条件にライセンス条件説明書と異なる定めがある場合は、ソフトウェア説明書に記載されるライセンス条件の定めが優先して適用されるものとします。

(3) オープンソースソフトウェア等に関する保証の範囲

ライセンス条件説明書記載の第4項「共通事項」第(5)号「保証の範囲」の定めにかかわらず、対象プログラムのソフトウェア説明書に特定されたOSSに関して富士通がお客様に対して負う責任は、ライセンス条件説明書記載の第4項「共通事項」第(5)号「保証の範囲」a.およびb.に限られるものとします。

本号に定める責任を除き、富士通はOSSについて一切の保証を行わず、またOSSの使用に伴い生じる損害や第三者からの請求等について一切の責任を負わないものとします。

(4) インストールレス型ジョブ実行制御について

お客様は、ライセンス条件説明書の第1項「基本的なご使用方法」第(1)号にかかわらず、本製品により、対象プログラムに含まれる「インストールレス型ジョブ実行制御」を利用することはできません。「インストールレス型ジョブ実行制御」を利用して管理対象コンピュータのジョブを実行する場合、お客様は別途当該機能に関するライセンスを購入する必要があります。

[Solaris版Systemwalker Operation Manager プロセッサライセンス(リモートマシン用) (1年間24時間サポート付)に適用されるライセンス使用条件]

(1) オープンソースソフトウェア等のライセンス条件

本製品のうち、富士通が別途定めるオープンソースソフトウェア等(以下「OSS」という)については、ライセンス条件説明書に加えて、ソフトウェア説明書に記載されるライセンス条件が適用されます。ソフトウェア説明書に記載されるライセンス条件にライセンス条件説明書と異なる定めがある場合は、ソフトウェア説明書に記載されるライセンス条件の定めが優先して適用されるものとします。

(2) オープンソースソフトウェア等に関する保証の範囲

ライセンス条件説明書記載の第4項「共通事項」第(5)号「保証の範囲」の定めにかかわらず、対象プログラムのソフトウェア説明書に特定されたOSSに関して富士通がお客様に対して負う責任は、ライセンス条件説明書記載の第4項「共通事項」第(5)号「保証の範囲」a.およびb.に限られるものとします。

本号に定める責任を除き、富士通はOSSについて一切の保証を行わず、またOSSの使用に伴い生じる損害や第三者からの請求等について一切の責任を負わないものとします。

(3) 対象プログラムのインストールについて

ライセンス条件説明書の第1項「基本的なご使用方法」第(1)号にかかわらず、本製品により、お客様は対象プログラムをコンピュータにインストールすることはできません。

(4) インストールレス型ジョブ実行制御について

本製品により、お客様は、対象プログラムに含まれる「インストールレス型ジョブ実行制御」を利用して、日本国内の管理対象コンピュータに対象プログラムをインストールすることなく、ジョブを実行できます。この場合、当該管理対象コンピュータに搭載される中央処理装置（プロセッサ：CPU）の合計数はライセンス条件説明書に定めるライセンス数に限られるものとします。なお、ライセンス定義およびライセンス定義変更の場合の取扱いに関しては、ライセンス条件説明書の第1項「基本的なご使用方法」第(1)号に指定の「プロセッサライセンス定義書」に従うものとします。

サブスクリプションライセンス/サポートの契約におけるライセンス使用条件の特約事項について記載します。

【V17.0.0以降】

[Systemwalker Operation Manager プロセッサライセンス(リモートマシン用) for Windows (SL&S) / Linux (SL&S)に適用されるライセンス使用条件]

(1) オープンソースソフトウェア等のライセンス条件

本製品等のうち、富士通が別途定めるオープンソースソフトウェア等（以下「OSS」という）については、サブスクリプションライセンス/サポートのサービス仕様書、またはライセンス条件説明書に加えて、ソフトウェア説明書に記載されるライセンス条件が適用されます。ソフトウェア説明書に記載されるライセンス条件にサブスクリプションライセンス/サポートのサービス仕様書、またはライセンス条件説明書と異なる定めがある場合は、ソフトウェア説明書に記載されるライセンス条件の定めが優先して適用されるものとします。

(2) 対象プログラムのインストールについて

サブスクリプションライセンス/サポート製品のサービス仕様書記載の第3項「サービスの内容」第(1)号、またはライセンス条件説明書の第1項「基本的なご使用方法」第(1)号にかかわらず、本製品等により、お客様は対象プログラムをコンピュータにインストールすることはできません。

(3) インストールレス型ジョブ実行制御について

本製品等により、お客様は、対象プログラムに含まれる「インストールレス型ジョブ実行制御」を利用して、日本国内の管理対象コンピュータに対象プログラムをインストールすることなく、ジョブを実行できます。この場合、当該管理対象コンピュータに搭載される中央処理装置（プロセッサ：CPU）の合計数はサブスクリプションライセンス/サポート製品のサービス仕様書、またはライセンス条件説明書に定めるライセンス数に限られるものとします。なお、ライセンス定義およびライセンス定義変更の場合の取扱いに関しては、サブスクリプションライセンス/サポート製品のサービス仕様書記載の第3項「サービスの内容」第(1)号、またはライセンス条件説明書の第1項「基本的なご使用方法」第(1)号に指定の「プロセッサライセンス定義書」に従うものとします。

8. 購入例

以下に示すシステム構成の場合、購入対象商品と購入数は下記ようになります。

(A) 購入例1 クラスタ環境の場合

〔システム構成〕

サーバ(2コア、2CPU構成): クラスタ運用2台

サーバ(2コア、1CPU構成): 2台

〔対象商品と購入数〕

【運用待機形態の場合】

- Systemwalker Operation Manager Enterprise Edition メディアパック (64bit) V17.0.1 (必要数分)
- Systemwalker Operation Manager Enterprise Edition プロセッサライセンス V17 (2コア×2CPU×コア係数)×1台分 + (2コア×1CPU×コア係数)×2台分

【運用待機形態以外の場合】

- Systemwalker Operation Manager Enterprise Edition メディアパック (64bit) V17.0.1 (必要数分)

- Systemwalker Operation Manager Enterprise Edition プロセッサライセンス V17 (2コア×2CPU×コア係数)×2台分 + (2コア×1CPU×コア係数)×2台分

(B) 購入例2 インストールレス型ジョブ実行制御機能を利用する場合

〔システム構成〕

サーバ(2コア、2CPU構成):1台

リモートマシン(Solaris、2コア、1CPU構成):1台

リモートマシン(Linux、2コア、1CPU構成):1台

リモートマシン(Windows、2コア、1CPU構成):1台

〔対象商品と購入数〕

- Systemwalker Operation Manager Enterprise Edition メディアパック (64bit) V17.0.1 (必要数分)

- Systemwalker Operation Manager Enterprise Edition プロセッサライセンス V17 (2コア×2CPU×コア係数)×1台分

- Systemwalker Operation Manager プロセッサライセンス(リモートマシン用) V17〔Solaris版〕 (2コア×1CPU×コア係数)×1台分

- Systemwalker Operation Manager プロセッサライセンス(リモートマシン用) for Linux (SL&S) (2コア×1CPU×コア係数)×1台分

- Systemwalker Operation Manager プロセッサライセンス(リモートマシン用) for Windows (SL&S) (2コア×1CPU×コア係数)×1台分

9. 12.x以降からのバージョンアップ/レベルアップについて

以下の商品をお持ちの場合は、有償サポート・サービス「SupportDesk」のサービスの一環として、最新バージョン/レベルを提供いたします。また、32ビット商品と64ビット商品間での切り替えも可能です。(お客様からのご要求が必要です。)

「SupportDesk」を導入されていない場合は、新バージョン/レベル商品を改めてご購入頂く必要があります(価格の優遇はございません)のでご注意ください。

なお、「SupportDesk」の詳細については、弊社営業/SEにお問合せください。

[12.x以降からのバージョンアップ/レベルアップ対象商品]

・Systemwalker Operation Manager Enterprise Edition 12.x/V13/V16

10. 11.x以前からのバージョンアップについて

11.x以前の本商品をお持ちの場合は、弊社営業/SE にお問い合わせください。

11. Standard Editionからのアップグレードパスについて

(1) 下表に示す商品を購入することで、Standard EditionからEnterprise Editionへアップグレードが可能です。

(2) アップグレードを行うにあたり、メディアパックを各種ライセンスの購入に合わせ、最低1本は購入してください。

アップグレード対象商品	アップグレード時に購入する商品	購入可能数
Systemwalker Operation Manager Standard Edition プロセッサライセンス V17	Systemwalker Operation Manager Enterprise Edition プロセッサライセンス アップグレードキット V17	アップグレード対象 商品保有数 分、購入が 可能です。

※クライアント機能はEdition共通のためアップグレード不要です。

1. Systemwalker Centric Manager連携

Systemwalker Centric Managerでジョブネットの実行状態を監視する場合、以下のいずれかの商品のエージェント機能を同じサーバ上に共存させる必要があります。

- Systemwalker Centric Manager Standard Edition V13.5.1以降
- Systemwalker Centric Manager Enterprise Edition V13.5.1以降
- Systemwalker Centric Manager Global Enterprise Edition V13.5.1以降

2. Systemwalker Service Quality Coordinator連携

Systemwalker Service Quality Coordinatorと連携し、バッチとリソースの関係を可視化する場合、以下のいずれかの商品のエージェント機能を同じサーバ上に共存させる必要があります。

- Systemwalker Service Quality Coordinator Standard Edition V13.5.0以降
- Systemwalker Service Quality Coordinator Enterprise Edition V13.5.0以降

3. SAP ERP または Oracle E-Business Suite との連携

SAP ERPジョブ または Oracle E-Business Suite のコンカレントプログラムをSystemwalker Operation Managerを使ってスケジュールする場合、以下の商品が必要です。

- Systemwalker for ERPパッケージ ジョブ連携 V13.6.0以降

連携可能なSAP ERP または Oracle E-Business Suite のバージョン/レベルについては以下のマニュアルを参照してください。

- Systemwalker for ERPパッケージ ジョブ連携ガイド SAP ERP 編
- Systemwalker for ERPパッケージ ジョブ連携ガイド Oracle E-Business Suite編

4. Job Designer機能の使用環境

Job Designer機能を利用してジョブネットの作成を行う場合、以下のソフトウェアならびに動作環境が必要です。

〔必要ソフトウェア〕

- Microsoft Excel 2016(x86版/x64版)
- Microsoft Excel 2019(x86版/x64版)
- Microsoft Excel 2021(x86版/x64版)
- Excel for Microsoft 365(x86版/x64版)

【動作環境】

CPU:2 GHz 以上の x86 または x64 プロセッサ (SSE2 命令セットに対応)

メモリ:512 MB の RAM

ハードディスク空き容量:100 MB の空きディスク領域

5. 高信頼システム対応

クラスタシステムへの対応を行う場合、以下の商品が必要となります。

- PRIMECLUSTER Enterprise Edition 4.3A10/4.3A20/4.3A40/4.5A00/4.5A10/4.6A00
- PRIMECLUSTER HA Server 4.3A10/4.3A20/4.3A40/4.5A00/4.5A10/4.6A00
- PRIMECLUSTER Clustering Base 4.3A10/4.3A20/4.3A40/4.5A00/4.5A10/4.6A00
- Oracle Solaris Cluster 4.2/4.3/4.4

6. インストールレス型ジョブ実行制御機能を使用する場合

インストールレス型ジョブ実行制御機能を使用する場合は、リモートマシン上にSSH V2.0以上が必要となります。

- リモートマシンのOSがSolarisまたはLinuxの場合

OSの標準機能としてインストールされています。SSHがインストールされていない環境では、OpenSSHをインストールしてください。

- リモートマシンのOSがWindowsの場合

SSHがインストールされていない環境では、OpenSSH(cygwin OpenSSH V1.7以上)をインストールしてください。

= 注意事項 =

リモートマシンの動作OSが以下の場合、リモートマシンのWindows Defender Exploit Guardを無効にしてください。有効にするとCygwinの起動に失敗します。

- Windows Server 2022(64-bit)

- Windows Server 2019(64-bit)

インストールレス型ジョブ実行制御機能を使用する場合で、かつ、Systemwalker Operation Manager サーバのOSがSolarisの場合は、サーバ上にもSSH V2.0以上が必要となります。

留意事項の「クライアントの業務連携について」を参照下さい。

1. 64bit環境での動作について

本商品のサーバは、以下のOSで64ビットアプリケーションとして動作します。

- Solaris 11(64bit)

2. Windows デスクトップOS (64-bit)上での動作

サーバの環境設定ならびにジョブ定義用としてWindowsクライアントが必要です。クライアントは、以下のOSのWOW64(注)サブシステム上で、32ビットアプリケーションとして動作します。

- Windows 10(64-bit)
- Windows 11(64-bit)

注) Windows 32-bit On Windows 64-bit

3. リモートマシン用ライセンスの適応機種/適応OS

〔Solaris版〕

以下の機種で動作可能です。

- SPARC Servers
- SPARC Enterprise Mシリーズ
- SPARC Enterprise Tシリーズ
- マルチベンダーサーバ・クライアント
- FUJITSU Cloud Service for SPARC
- パブリッククラウド

以下のOSで動作可能です。

- Solaris 11(64bit)

〔Linux版〕

以下の機種で動作可能です。

- PRIMEQUEST 4000シリーズ
- PRIMEQUEST 3000シリーズ
- PRIMEQUEST 2000シリーズ
- PRIMERGY
- マルチベンダーサーバ・クライアント
- FUJITSU Hybrid IT Service FJcloud-0 IaaS
- パブリッククラウド

以下のOSで動作可能です。

- Red Hat Enterprise Linux 9 (for Intel64)
- Red Hat Enterprise Linux 8 (for Intel64)
- Red Hat Enterprise Linux 7 (for Intel64)

〔Windows版〕

以下の機種で動作可能です。

- PRIMEQUEST 4000シリーズ

- PRIMEQUEST 3000シリーズ
- PRIMEQUEST 2000シリーズ
- PRIMERGY
- マルチベンダーサーバ・クライアント
- FUJITSU Hybrid IT Service FJcloud-0 IaaS
- FUJITSU Hybrid IT Service for Microsoft Azure 仮想マシン
- パブリッククラウド

以下のOSで動作可能です。

- Windows Server 2022(64-bit)
- Windows Server 2019(64-bit)
- Windows Server 2016(64-bit)

4. IPv4ネットワーク/IPv6ネットワークの混在環境について

(1) 動作可能な通信環境

Systemwalker Operation Manager V13.6.0においてIPv6に対応しました。Systemwalker Operation Managerは、以下の環境で利用可能です。また、ネットワーク上で通信環境が混在する場合においても、Systemwalker Operation Managerを利用して、業務運用することができます。

- IPv4環境
- IPv6環境 (*1)
- IPv4/IPv6デュアルスタック環境 (*2)

*1)

- IPv4プロトコルを無効にした環境を指します。IPv4をアンインストール(netsh interface ipv4 uninstall)しないでください。【Windows版サーバおよびWindowsクライアントの場合】
- Systemwalker Operation Managerで業務運用する場合に、使用可能なIPv6アドレスの種類は、以下のとおりです。
 - ・ グローバルユニキャストアドレス
 - ・ ユニークローカルユニキャストアドレス

*2)

- IPv4/IPv6デュアルスタック環境において、Systemwalker Operation Managerは、IPv4アドレスを優先的に使用します。

V13.4.1以前のSystemwalker Operation Managerサーバとも接続することができます。この場合もIPv4アドレスを使用します。

- IPv4/IPv6デュアルスタック環境で、Systemwalker Operation Managerのサーバを運用する場合、サーバの“hosts”ファイルに、自ホストのホスト名に対するIPv4アドレスとIPv6アドレスの両方を定義してください。

(2) V13.4.1以前の複数サーバ監視クライアントから複数サーバ監視を行う場合

IPv6で通信している監視対象サーバが存在する場合、IPv4で通信している監視対象サーバを含むすべての監視対象サーバについて複数サーバ監視ができません。

(3) クラスタシステム構成のスケジュールサーバからネットワークジョブを投入する場合

クラスタシステム構成のスケジュールサーバからネットワークジョブを投入する場合、スケジュールサーバに設定する論理IPアドレスは、実行サーバの通信環境に応じて、下記のとおり定義してください。

- 実行サーバがIPv6環境の場合：

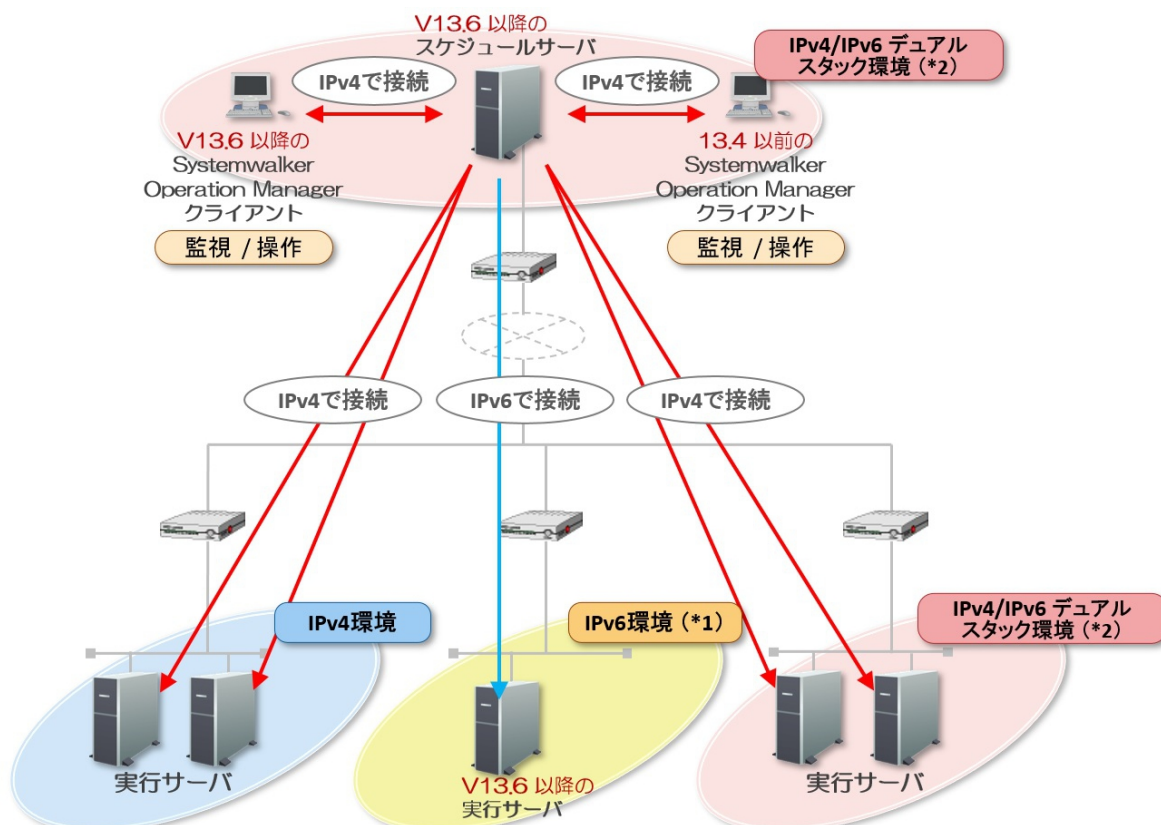
IPv6アドレス

- 実行サーバがIPv4環境またはIPv4/IPv6デュアルスタック環境の場合：

IPv4アドレス

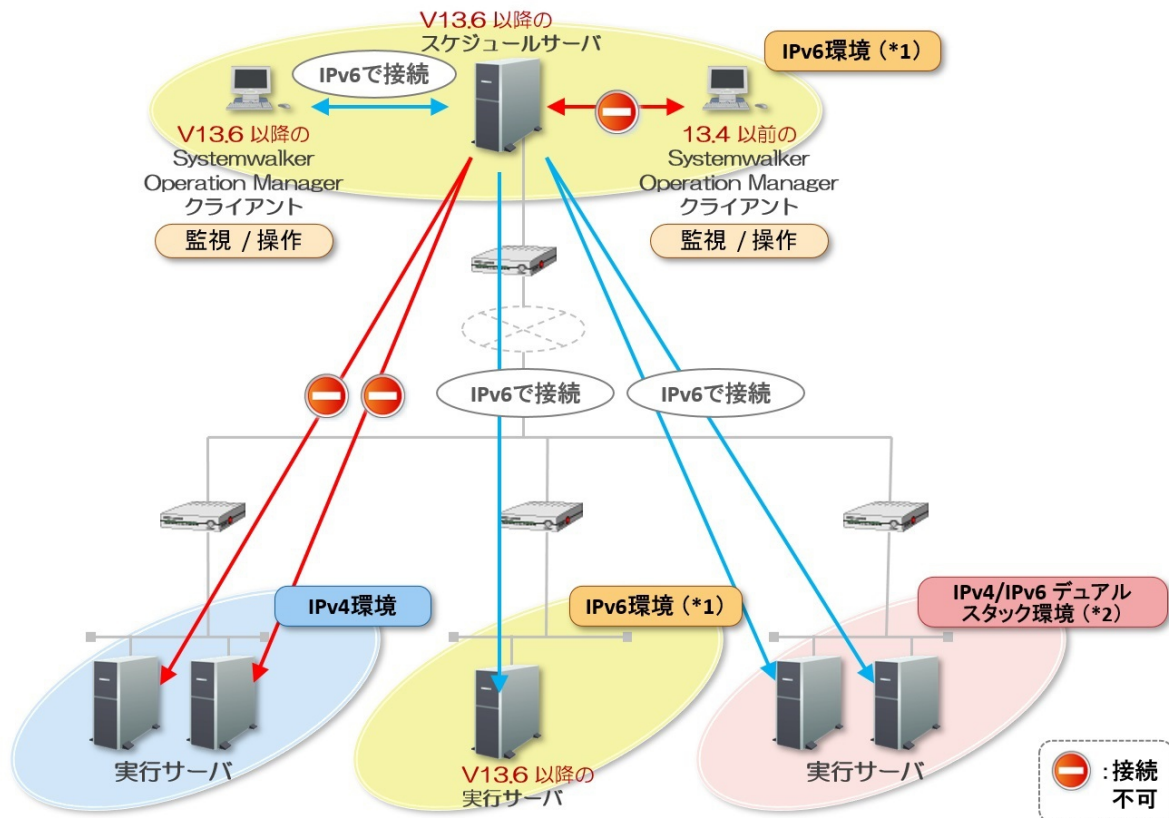
なお、IPv6環境の実行サーバと、IPv4環境やIPv4/IPv6デュアルスタック環境の実行サーバとを混在させて運用することはできません。

ネットワーク上で通信環境が混在する場合の接続例(その1)



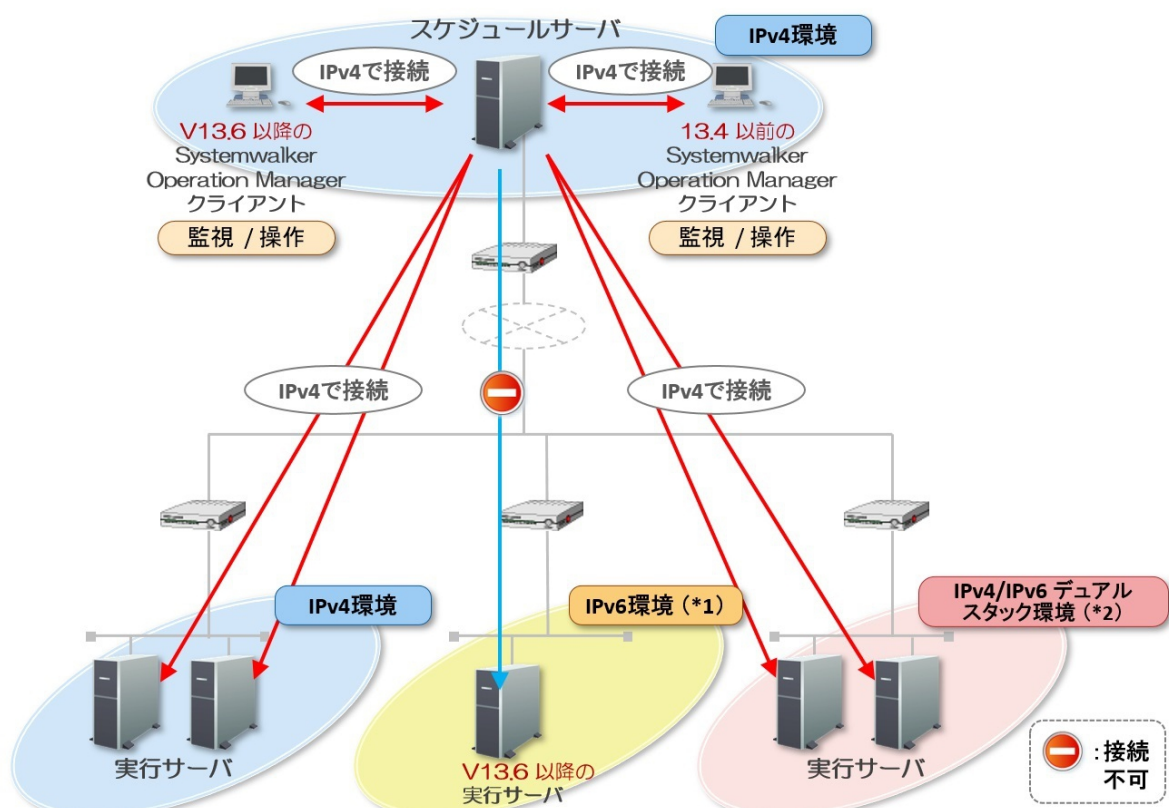
(*1)、(*2) については本留意事項「IPv4 ネットワーク/IPv6 ネットワークの混在環境について」の冒頭説明を参照してください。

ネットワーク上で通信環境が混在する場合の接続例(その2)

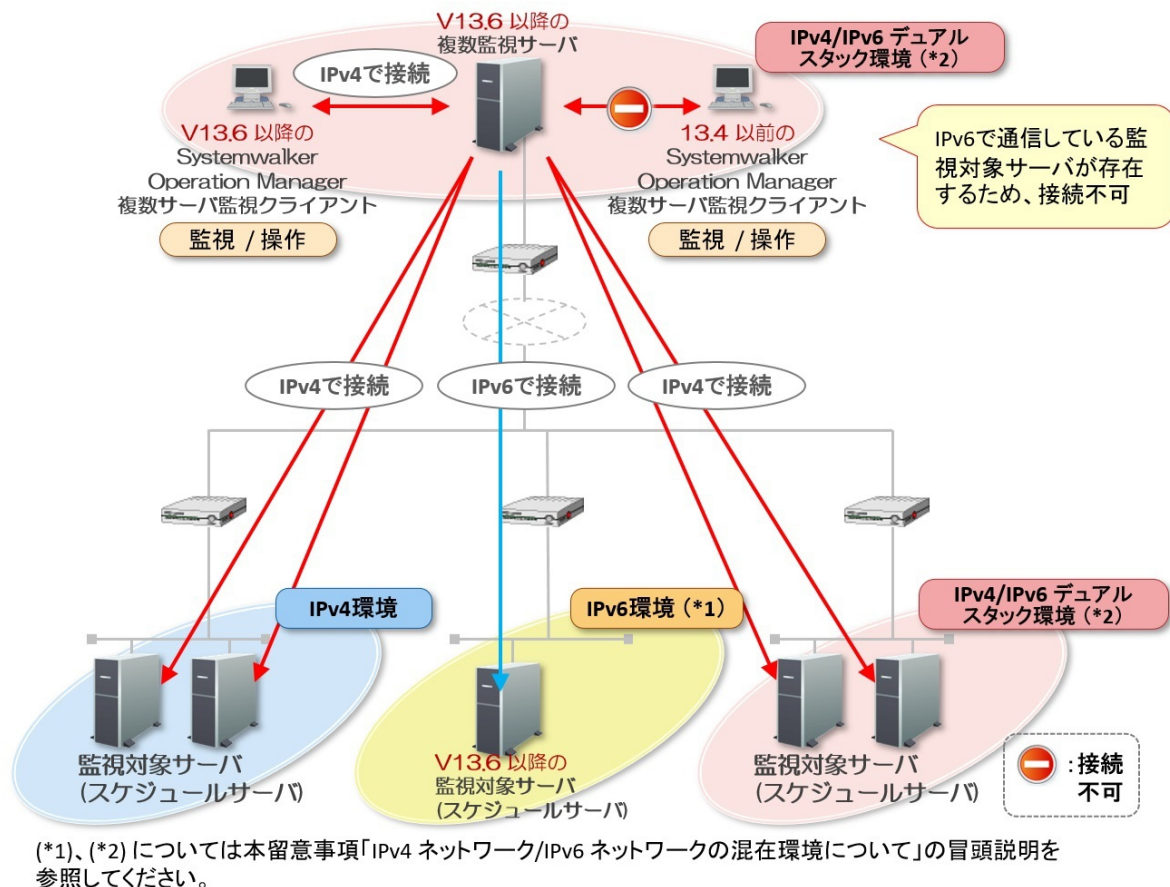


(*1)、(*2)については本留意事項「IPv4 ネットワーク/IPv6 ネットワークの混在環境について」の冒頭説明を参照してください。

ネットワーク上で通信環境が混在する場合の接続例(その3)



(*1)、(*2)については本留意事項「IPv4 ネットワーク/IPv6 ネットワークの混在環境について」の冒頭説明を参照してください。



5. IPv6環境での動作について

(1) 入出力におけるIPv6アドレスの表記について

Systemwalker Operation Managerでは、IPv6アドレスを使用する場合の画面入出力、コマンド入出力、メッセージ出力、ログ/トレース出力において、以下のIPアドレス表記をサポートしています。

- ・非省略表記()

例 => 2001:0db8:0000:0000:0123:4567:89ab:cdef

- ・省略表記()

例 => 2001:0db8::0123:4567:89ab:cdef (“ 0000 ” のフィールドを省略)

- ・RFC 5952準拠表記

例 => 2001:db8::123:4567:89ab:cdef

英字部の大文字 / 小文字 / 大小文字混在表記が可能です。

(2) Webコンソールで使用するWebサーバについて

IPv6環境上には、Webコンソールで使用するWebサーバを構築できません。

このため、IPv6環境で運用する場合は、Windowsクライアントで監視を行ってください。

(3) 複数サーバ監視時の監視ホストの設定について

複数のSystemwalker Operation Managerサーバを監視する運用では、監視サーバと監視対象サーバとの間で、それぞれの監視ホストの定義と監視許可ホストの定義のインターネットプロトコルのバージョンが一致している場合に利用することができます。

(4) クライアント電源投入コマンドについて

IPv6環境においては、PONCLI.EXEおよびponcli 電源投入コマンドは使用できません。IPv4環境、またはIPv4/IPv6デュアルスタック環境で使用してください。

6. グローバルサーバ上のジョブの実行について

グローバルサーバ上のジョブを実行するためには、Systemwalker Operation Manager Global Enterprise Editionおよびグローバルサーバ上にSymfoNET / 基本運用及びAPSが必要です。

7. Webブラウザについて

Systemwalker Webコンソールを使用する場合、クライアント環境に以下のWebブラウザが必要です。

Microsoft Internet Explorer 11 (1)

Microsoft Edge(Chromium ベース)のIEモード (2)

1) デスクトップ版Internet Explorerでの利用が可能です(Microsoft Edgeでは利用できません)。Microsoft Internet Explorer 11は以下のOSで動作可能です。

- ・ Windows Server 2022
- ・ Windows Server 2019
- ・ Windows Server 2016

2) Microsoft Edge(Chromium ベース)のIEモードは以下のOSで動作可能です。

- ・ Windows 11
- ・ Windows 10

8. 旧バージョンとの整合性について

(1) クライアントから旧版のサーバに接続を行う場合、以下の注意が必要です。

- 旧版のサーバで提供されていない機能は使用できません。

(2) 旧版のクライアントからは、今版のサーバに接続できません。

9. Web コンソール/Web APIの暗号化通信について

Web コンソール/Web APIの暗号化通信(SSL: Secure Socket Layer)の利用時に、証明書を作成するためには、認証局(証明書発行局)が必要です。扱える証明書の種類については、「Systemwalker Operation Manager 解説書」の「関連ソフトウェア」をご覧ください。

10. Interstage連携について

Interstage属性のジョブを起動させる場合、64ビット版のInterstage Application Serverと組み合わせる必要があります。

なお、連携可能なInterstage Application Serverのバージョンレベルおよびワークユニットについては、マニュアル「Systemwalker Operation Manager 解説書」の「関連ソフトウェア」をご覧ください。

11. クライアントの業務連携について

クライアント業務連携機能でクライアントの電源制御を行う場合、以下のハードウェアが必要です。

[クライアントの電源投入]

以下のすべての条件を満たすハードウェアが必要です。

- ・ Wakeup on LANをサポートしている機種である。
- ・ Wakeup on LANをサポートしているLANカードが実装されている。
- ・ Wakeup on LANによる電源投入がBIOSレベルで有効になっている。

[クライアントの電源切断]

以下のいずれかの条件を満たすハードウェアが必要です。

- ・ APM(Advanced Power Management)

- ・ ACPI (Advanced Configuration & Power Interface) をサポートしている機種で、かつ、Windowsからの電源切断が可能になっている。

12. zone機能に関する注意事項

non-global zone/Kernel zoneに対する電源制御はできません。global zoneにSystemwalker Operation Managerがインストールされていれば、global zoneに対する電源切断が可能です。

13. Job Designerツールについて

Job Designerツールを使用する場合、Excelのメニューバー（リボン）は、使用しないでください。使用した場合は、セルの情報が書き換えられ、正常にオペランドのチェックやジョブネット定義CSVファイルが出力されないことがあります。

14. パッケージ構成について

Systemwalker Operation Manager Enterprise Edition メディアパックには、以下のプログラムおよびマニュアルが同梱されています。

- サーバプログラム
- クライアントプログラム
- オンラインヘルプ
- オンラインマニュアル
- ソフトウェア説明書

15. オンラインマニュアルについて

オンラインマニュアルは以下の通りです。

- ・ Systemwalker Operation Manager マニュアル体系と読み方
- ・ Systemwalker Operation Manager リリース情報
- ・ Systemwalker Operation Manager 入門ガイド
- ・ Systemwalker Operation Manager 解説書
- ・ Systemwalker Operation Manager 活用ガイド
- ・ Systemwalker Operation Manager 導入ガイド
- ・ Systemwalker Operation Manager 設計ガイド
- ・ Systemwalker Operation Manager 運用ガイド
- ・ Systemwalker Operation Manager 移行ガイド
- ・ Systemwalker Operation Manager リファレンス集
- ・ Systemwalker Operation Manager メッセージ集
- ・ Systemwalker Operation Manager 用語集
- ・ Systemwalker Operation Manager トラブルシューティングガイド
- ・ Systemwalker Operation Manager Q & A 集
- ・ Systemwalker Operation Manager マスタスケジュール管理 ユーザーズガイド
- ・ Systemwalker Operation Manager Webコンソール操作ガイド
- ・ Systemwalker Operation Manager Job Designer ユーザーズガイド
- ・ Systemwalker Operation Manager クラスタ適用ガイド Windows編
- ・ Systemwalker Operation Manager クラスタ適用ガイド UNIX編
- ・ Systemwalker Operation Manager Global Enterprise Edition ユーザーズガイド

16. エディションおよび動作OSによる機能差について

エディションおよびOSの機能差につきましては、マニュアル「Systemwalker Operation Manager 解説書」の「OS別機能差一覧」をご覧ください。

17. 前版との違いについて

以下の環境については、サポート対象外となります。

- Windows 8.1 (64bit) (クライアント動作OS)
- Microsoft(R) Excel 2013(x86/x64版) (Job Designer機能の前提商品)

お客様向けURL

- ・ **ソフトウェア：富士通（Systemwalker Operation Manager）**

製品概要や動作環境、導入事例、価格等、製品紹介資料を幅広く提供しております。

<https://www.fujitsu.com/jp/software/systemwalker/operationmgr/>

- ・ **ソフトウェア：富士通（ソフトウェアの一覧表（システム構成図）と各種対応状況）**

価格/型名の一覧（システム構成図）を提供しております。

<https://www.fujitsu.com/jp/products/software/resources/condition/configuration/>

- ・ **ソフトウェア：富士通（インフォメーション&ダウンロード）**

「ライセンスについて、くわしく知る」の項で、富士通製ミドルウェア製品のライセンスに関する解説、サポートポリシーなどの情報を提供しております。

<https://www.fujitsu.com/jp/products/software/information-download/>